

◆28 番（森田卓司議員）

皆さんこんにちは。自民党市議団，森田卓司でございます。

私のほうからも熊本地震で被災された方にお見舞いを申し上げますとともに，亡くなられた方に心から御冥福をお祈りいたします。

また，震災後，議長の呼びかけで議員有志で岡山駅で街頭募金のお願いを市民の皆様を初め多くの皆様にお願したところ，本当に多くの，金額で言えば 50 万円以上という大きな金額の募金をいただいたわけでありますが，それよりも私が思ったのは，中学生，高校生，そして年配の方と，幅広い人たちが本当に財布の中から本当になけなしのと言ったら怒られるかもわかりませんが，募金してくださった，本当に美しい心の岡山市民，温かい心の岡山市民，そして全国から来られた方，本当にすばらしい日本だなと思ったところがあります。こういう震災が起こることはいいことではないんですが，こういう心を持った方々がどんどんふえることで岡山市も日本もよくなると思っております。

それでは，通告に従いまして質問に入らせていただきます。

1，夢のある地域創生を目指して。

日本政策研究センター発行の「明日への選択」で，藤山浩氏の著書「田園回帰 1%戦略」の一部が紹介されています。1年に1%の人と仕事を取り戻していくという目標を実現できれば，その地域は安定的に持続，存続していくことができる。また，田舎の田舎と呼ぶ中山間地域等の再生なくして地方都市の再生もないのが事実でもあると述べられています。

政令市の中でも浜松市では，浜松市中山間地域振興計画を策定し，時代に即した施策を実施されています。また，京都市では，右京区京北地域で合併から 10 年を一つの契機として，世界の京都の一角を占め，自然，歴史，文化，温かいコミュニティーなど魅力あふれる地域をしっかりと未来に引き継いでいけるよう京都京北未来かがやきビジョンを策定されています。岡山市の場合は，地域振興立法の指定地域，農林統計上の中山間地域等を加えた 24 小学校区としており，全国に誇れるモデルとなるような中山間・周辺地域の活性化を目指す方向が示されています。

そこでお尋ねいたします。

(1) 平成 27 年度の中山間地域等実態把握アンケート調査結果を踏まえ，今年度実施している中山間・周辺地域活性化検討事業の現時点の進捗状況をお示してください。

(2) 中山間・周辺地域活性化検討事業の最終目的をお示してください。

次に，県道落合・建部線で 4 月 28 日，5 月 2 日にのり面の崩落が発生し，5 月 14 日には同じ箇所で大規模崩落の災害が発生しました。地元の皆様方は大変不便な思いをされており，安全対策と早期の復旧を求め要望書が市長宛てに提出されております。そして，昨日の新聞にも出ておりましたが，今年度から道路拡幅のための用地買収が行われる計画で

あります主要地方道建部・大井線でも崩落が起こり、通行どめになっております。中山間地域では、多くの地域でこのような災害がいつ発生してもおかしくない状態です。

そこでお尋ねいたします。

(3) 今回の災害で中山間地域で広大な面積を持つ御津・建部支所の存在の重要性を改めて強く感じたところですが、御津・建部支所の産業建設課を残した存続についての御所見をお示しく下さい。

次に、周辺地域にも豊かな自然、歴史、文化、そして何よりも温かいコミュニティーがあり、それらを次の世代に引き継ぐことが我々世代に求められていると思います。先ほども質問されておりましたが、それを実現するための一つの事業として本市には区づくり推進事業がありますが、地域住民の活動を支援するこの事業は、地域内の住民への謝礼金が払えないなどの制約があると認識しています。

そこでお尋ねいたします。

(4) 地域の人こそが伝承者である伝統芸能が引き継がれていくためには、その地域の方を指導者として認め、一定の謝礼金の支払いも必要ではないかと考えますが、御所見をお示しく下さい。

次に、自民党小泉進次郎農林部会長が、国土の7割、首都の東京でも4割は森林だということを知っていましたか、そして、農林部会長として林業の成長産業化に取り組んでいますが、林業について知れば知るほど日本が持っている自然の恵みをもっと生かさなくてはならないと発信されています。

岡山市の森林の面積は、約350平方キロメートルで、全市面積の45%、御津、建部の森林面積は148平方キロメートルで、両地域面積の73%と広大な面積を占めている地域です。新市基本計画でも、林業の振興も示されています。

そこでお尋ねいたします。

(5) 岡山市としての現状での森林についての認識をお聞きすると同時に、今後の森林政策について有効な対策を真剣に考えるべきだと考えますが、御所見をお示しく下さい。

次に、御津・建部コミュニティバスについてお伺いいたします。

御津コミュニティバス及び建部町生活バスは地域の方々のニーズに合った効率的で将来にわたり持続可能な運行、交通手段となるよう関係者の皆様方の御協力で平成24年4月から御津・建部コミュニティバスとして運行が開始され、平成26年4月には地域の皆様方の意見等を運行形態に反映させ、利便性の向上を行い、現在に至っています。

そこでお尋ねいたします。

(1) コミュニティバスの本来の目的について認識をお示しく下さい。

(2) 平成26年度に行ったアンケート調査の取りまとめの結果は、どのような形で誰に報告したのか、お示しく下さい。

(3) 改善点等の検討と運行計画の見直し案はいつごろ作成できたのでしょうか。

(4) 御津・建部地域の生活交通を守り育てる会及び岡山市地域公共交通会議御津・建部

地区会議は、年間どの程度開催されているのかお示してください。

また、アンケートの結果については、岡山市地域公共交通会議御津・建部地区会議でどのような議論がされて、どのように地域の意見が反映されたのか、お示してください。

(5) 地域から出た要望は真摯に考え、さらなる利便性の向上に取り組むべきだと思うが、いかがでしょうか。

以上で1回目の質問を終わります。(拍手)

#### ◎大森雅夫市長

それでは、森田議員の御質問にお答えします。

私のほうは、中山間・周辺地域活性化検討事業の目的ということでございますが、そもそも周辺地域については、長期構想で、それぞれの地域が多様で豊かな地域資源を十分に生かして活性化と生活機能の維持を図っていこうとしているところであります。活性化に当たっては、地域課題の解決策や活性化策を地域住民みずからが主体的に検討していくことが重要であるという認識を持っているところであります。御指摘の事業は課題解決に主体的に取り組む地域を行政が後押しすることにより、地域の活力を維持し、担い手の育成を図ることを目指すものであり、人口減少や高齢化などの社会変化に的確に対応した安心して暮らし続けられる地域づくりを推進したいと考えているところであります。

中山間地域の問題は、もう日本全国みんなが悩んでいるところでございます。このような今御指摘の事業とともに、ことしは長期構想のいわゆる区別計画も策定という予定になっているわけございまして、また地域ごとに議論することも今やっているところであります。そういったことを通じながらみんな考えて、少しでもいい対策が講じられればと思っておりますので、よろしく願い申し上げたいと思います。

#### ◎佐々木正士郎理事

夢のある地域創生を目指しての項、中山間・周辺地域活性化検討事業の現時点での進捗状況についてお答えいたします。

昨年度実施いたしましたアンケート調査におきましては、日常生活機能の維持や移動手段の確保、子育て環境など地域ごとの実情や課題を把握したところであり、今年度の中山間・周辺地域活性化検討事業においては、これらのアンケート調査結果を踏まえた課題解決に取り組むモデル地域を4地域程度選定することとしております。現在、モデル事業として取り組む意向を地域に確認しているところであり、8月ごろにはモデル地域を決定し、その後当該地域の課題についての検討体制の構築を行うとともに、ワークショップや勉強会を実施し、今年度中に課題解決方策の結果を取りまとめていくこととしております。

以上でございます。

◎河野広幸市民生活局長

同じ項の中で、御津・建部支所の産業建設課の存続についてお答えいたします。

合併地区の支所には、主として新市計画の事業の推進とその実効性を担保するため、産業建設課を新市計画期間終了まで設置することとしております。将来の合併地区の土木農林機能のあり方につきましては、各種施設の維持管理や災害時の対応などにも配慮し、本庁、区役所を含めた全体的な機能のあり方を考える中で、地理的、地勢的な条件やニーズを踏まえながら検討を進める必要があると考えております。

以上でございます。

◎奥野淳子市民協働局長

同じ項の中で、区づくり推進事業の謝礼金についての御質問にお答えいたします。

区づくり推進事業は、地域の交流や課題を地域で解決するための取り組みを支援する制度であるため、みずからの活動に対する謝礼金を補助対象とすることはこの制度の趣旨に合わないことをまず御理解いただきたいと考えております。しかし、地域の課題解決のためには、伝統芸能の伝承など特殊技能を持った当該地域の方が講師となる場合もあり、補助対象について研究してまいりたいと考えております。

以上です。

◎山本修司経済局長

同じ項、森林政策についてお答えします。

森林には、水源涵養、土砂災害防止、CO<sub>2</sub>の吸収、木材の供給といった機能や安らぎの景観やレクリエーションの場など、市民の生活環境を快適で潤いあるものにする働きがあり、岡山市の大切な資源の一つであると認識しております。

森林政策については、岡山市森林整備計画に基づき、人工林については適正な保育、間伐等による優良木材の生産を、また天然林では森林の持つ公益的機能と開発との調和を図り、地域の活性化にも配慮した利用を引き続き推進してまいりたいと考えております。

以上です。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

御津・建部コミュニティバスの御質問の中で、まずコミュニティバスの本来の目的についてですが、御津・建部コミュニティバスは、路線バスの廃止に伴って旧御津町、旧建部町が運行を開始した代替交通で、御津・建部地域の方々の通勤や通学、買い物などのニーズに応える移動手段として、利用者が料金を支払い、市の赤字補填を受けながらバス事業者が運行しているシステムとなっております。

次に、同じ項、残りの御質問に対して一括してお答えいたします。

平成 26 年度に御津・建部コミュニティバス運行改善に関するアンケート調査を実施し、

平成 27 年 3 月の御津・建部地域の生活交通を守り育てる会において、各路線の利用状況とともにアンケート結果を一覧にしてお示したところ、市に対応案を提案してほしいと求められました。その後、市ではアンケートにある運行改善提案に対する対応案を検討し、ダイヤやルート、バス停位置の変更など、改善案にメリット、デメリットの考察を加えて同年 12 月の守り育てる会に提示しました。地域からの改善提案の内容は、より近くにバス停を増設してほしい、遠回りして家の近くに来てほしいなどの提案が多く、運行時間が延びれば鉄道との接続時刻や小学校の始業時刻等との余裕時間への影響があることから、守り育てる会では、関係する地区の方々をよく話をしてほしいとの意見が多くあり、話を始めたところでした。

守り育てる会とはこれまで年間 1 回から 5 回程度協議を行っており、改善計画案が了解されれば、法に基づく地域公共交通会議に諮ることになります。今後は、関係の地区の方々との話がまとまり次第、守り育てる会の了解と地域公共交通会議での関係者の合意を経て、運行改善案の実現を図ってまいります。

議員御指摘のとおり、地域から出された要望には真摯に取り組み、より地域のニーズに合った生活交通にしていきたいと思いますと考えております。

以上です。

◆28 番（森田卓司議員）

中山間地域の件でございますが、今理事から、モデル地域を 4 カ所ぐらい選定するというものでありましたが、選定の仕方については、例えば各区に 1 個ずつとするとか、そういうふうな方法は決められているのでしょうか。

◎佐々木正士郎理事

基本的にはアンケート調査をしたのが 24 小学校区でございますので、24 小学校区でその校区単位でお聞きしているんですけども、実際にモデル事業として選定する場合には、それぞれの地域で多分実情があって、もう少し小さいところじゃないと話がまとまらないとか、それぞれの地域に応じて変わってくるものかなと思っております。そこはまた地元といろいろやりとりしながら具体のエリアみたいなものは決めていきたいと思っておりますが、それぞれの地域において必ずしも一律にこのエリアとか、必ず小学校区単位じゃないといけないとか、そういうことは今のところは考えておりません。

◆28 番（森田卓司議員）

人口減少も進んでおりますし、何とかそれを食い止めるためにそういうモデル地域をつくり、何とか今は緩やかな人口減少にすることに取り組んでいただきたいと期待しております。

それから、区づくり推進事業の伝統芸能の件でございますが、まず局長にお伺いします。

伝統文化の保存とか伝承について、局長はどのような御認識をお持ちか、お示してください。

◎奥野淳子市民協働局長

伝統芸能の中でも、特に古くからその地域の方々に愛されて大切に引き継がれてきたものというのは、その地域にとってはやはりかけがえのないものであって、その保存、継承をしていくということは、地域のつながりを深めたり地域を活性化したり魅力を発信したりという地域づくりにつながっていくものと認識しております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

じゃあ、その伝統文化の保存とか継承はしなくていいと思っているわけではないですね。

◎奥野淳子市民協働局長

もちろんそう考えます。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

今回私が言っているのは、例えばA、B、Cという地域があったとして、それぞれ獅子舞とか棒遣いとかいろんなことをやっている地域が岡山市内どこにでもあると思うんですけど、AとBとCの地域が同じことをやっているわけじゃないんですよ。AはAの地域の伝統文化というか伝統でそれを引き継がれ、保存し伝承しようという活動をされておるし、BはBでそういうことを同じようにやられている。だから、他の地域から講師というかそういう人を呼んできても、それは伝統文化の保存とか継承にはならないと思うんですよ。そういうことを次の世代に引き継いでいくためには、そのAならAの地域の人子どもたちとかそういう方に教えていかないと、本当の伝統文化の保存とか継承にはならないと思うんですが、その辺のお考えをお示してください。私の考えが間違っていたら間違っていると言ってください。

◎奥野淳子市民協働局長

伺ったようにその地域ならではの伝統芸能の継承には、やはりそういう特殊技能を持ったその地域の方しか講師になれないという場合もあるということで、そういった課題も踏まえて今の補助対象の範囲について区役所等とも協議していきたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

そういうことで、報償費とかというような項目があるから、どうしても地域の人はできると思って出すじゃないですか。そしたら、それは出せませんよと言われると、ほんならこれは何ならというようなことになってくると思うんですよ。今、局長が言われたように、お金のことなのでちゃんと決めるべきところは決めて、後で不適切な支出とかそういうことを言われるとやっているほうも気分が悪くなると思うんです。だから、そういう部分ではこれから議論をしていくということなので、議論していただいて、適切な支出ができるような方法なりを考えていただきたいと思います。いかがでしょうか。

◎奥野淳子市民協働局長

おっしゃった課題について、区づくり推進事業で地域の方による持続可能な地域づくりをしっかりと支援していきたいという、そういった趣旨に基づいて協議していきたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

できるだけ早くその議論を行って、その定義というか要綱になるのか何になるのかわかりませんが、つくっていただきたいと思います。いかがでしょうか。

◎奥野淳子市民協働局長

来年度の区づくり推進事業の募集は、12月から始まることになろうかと考えておりますけれども、それまでには区役所と協議を行って、一定の整理をしたいと考えております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

よろしく願いいたします。

次に、森林政策でございますが、地域森林計画の概要を教えてください。

◎山本修司経済局長

岡山市森林整備計画でございますが、まず国の全国森林計画というのがございます。これに則して岡山県が策定した岡山県地域森林計画、こちらの県計画に適合した計画でございまして、岡山市の森林関連施策の方向と森林所有者等が行う伐採、造林、森林の保護等の規範となる計画となります。計画地域としては、岡山市内で地目が山林であればほとんどがこの計画に含まれることとなります。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

それでは、岡山市の本年度の森林計画にはどのようなものがあるのか、お示してください。

◎山本修司経済局長

森林整備計画に基づきます今年度の森林関係の事業でございますが、主に市有林管理事業、市民憩いの森整備事業及び林業振興対策事業を実施することとしております。市有林管理事業、市民憩いの森整備事業は、東区瀬戸の森林公園、北区建部のたけべの森公園及び南区貝殻山の市民憩いの森のそれぞれ植栽や遊歩道などの維持管理事業でございます。

また、林業振興対策事業では、民間林の間伐、山林の境界確認や作業道整備等による林業事業者の作業の集約化、効率化、また林業の保全を目的に間伐時に発生する未利用材の活用等を支援することとしております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

それでは、次の項目、御津・建部コミュニティバスについて。

私の認識では、平成24年に始まって2年に1回大きな見直しをしよう。それで、毎年マイナーチェンジ、例えば停留所を変えるとか、そういうものは毎年できるだけやっていると認識しておりますが、間違いはないでしょうか。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

岡山市では、平成24年4月に旧御津町と旧建部町のエリアで別々に運行していた生活バスを御津・建部コミュニティバスとして1つのエリアに統合いたしまして、一体的な運行を開始し、新たに幹線と支線を設定するとともに、幹線は定時・定路線とし、支線の一部はデマンド運行を導入しました。その際、守り育てる会に今後はおおむね2年後を目途に見直ししようとする、そして小さな改正などについては随時対応していく旨の説明をしてございます。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

そうであれば、本来なら本年度が2年目になるので、もっともっとアンケートの意向が反映されてもいいと思うんですが、まず、軽微な変更だけでも地元に出向いて対応し話し合えばいいのではないかと思います、いかがでしょう。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

地域からいただきました軽微な改善項目の中にも法に基づく地域公共交通会議の合意が必要なものがありますが、議員御指摘のとおり地元に出向いて、法によらないで改善できるところはすぐには実施するですとか、あるいは軽微な変更であっても法的な手続が必要で



あるなどの丁寧な説明をすべきであったと考えております。今後は、地元に対しまして対応案だけではなく、進め方や実施時期などについても丁寧な話し合いを行ってまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

もしかしたら都市整備局の担当がこのバスの運行の状況を一番よく知っておかなくてはいけないのではないかと思います。実際に一番よく知っているのは事業者、特に運転手さんではないかと思います。その辺はどのような認識を持たれていますでしょうか。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

各路線の変化と現状を一番知っているのは運行事業者ではないかということでございますが、おっしゃるとおり一番詳しいのは運行事業者と考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

運行事業者との話し合いというのは、年間どの程度されていますか。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

岡山市は、運行事業者と運行改善策の検討などにつきまして、必要に応じて話し合いを行っております。昨年度では数回、アンケート結果の運行改善提案への対応案の実現性や利用者増に対応するための車両の大型化、隣まちと連携して幹線路線を延長することなどについて話をいたしました。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

先ほどの答弁ですが、例えば利用者が少ない路線だったら、利用者が特定できるといったら個人情報とかなんとかといったことになるかも知れませんが、そういうことができるのではないかと思います。これは質問なんですけど、例えば今まで利用していた人が不幸にも施設に入って、もう利用しなくなりましたと、そういう方もいらっしゃるでしょうし、それから逆に運転免許証の返納を余儀なくされてもう運転ができなくなったから、どうしてもバスを使わなくてはいけなくなったとかというようなことがあると思うんですが、そういう聞き取りをしっかりと事業者からすることが必要なのではないかと思います。いかがでしょうか。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

まず、利用者の少ない路線ではどういう方が利用されているかといったことをある程度把握することは可能だと考えております。利用者が少ない場合につきましては、まずその方の利用状況やニーズを事業者を通じる等して把握いたしまして、運行などを変更することが可能かどうか、守り育てる会の方々と一緒になって、より使いやすいコミュニティバスとなるよう話し合いをしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

先ほどから言われている地域公共交通会議、これは誰が招集するのでしょうか

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

地域公共交通会議は、守り育てる会での協議が調い次第、市の要請により地域公共交通会議の会長が招集することとなっております。

以上です。

◆28番（森田卓司議員）

今まで御所見をいろいろ伺いましたが、結局私はこの2年間、アンケート調査はしたけれど実際には何もやってないのではないかと思うんです。利用者のニーズ、利用者のことをアンケートでは聞きました。しかし、やる気になってやろうと思わんと、これはだめだ、これはだめだと言ったら、何も前に進まんじゃないですか。どうやったらできるかということを考えてやるのが筋だと思うんですけど、そういうことはやってこられましたか。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

地元から出されました改善案につきまして、岡山市といたしましてもこれまで検討してまいりましたが、ある程度まとめた段階で地域公共交通会議に諮るべきものと考えて検討しておりましたものですから、すぐにでもできる小さな改善といいますか、そういうところになかなか気が回っていなかったという事実はあります。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

私が言いたいのは、またいつものところに戻るわけですが、中心市街地と周辺地域についてです。中心市街地の路面電車の乗り入れ、これは多くの新聞報道等されています。そして、今言うこの周辺地域のコミュニティバス、地域の人足をどうしようかということについては、今の答弁を聞いてとっても、2年間、本当に地域の人からも何も変わってねえ

というような意見も聞きますし、これをこうしてくれえというても何もできてねえと。それから、守り育てる会においてもそういうことは聞いてくれんというような話も聞いております。そこはこらえたとしても、岡山市は長期構想の中でコンパクトでネットワーク化された快適で多様なまちづくりというのを基本方向とされておりまして、その中のネットワークとは、周辺地域の各拠点と都心部とが利便性の高い公共交通等で結ばれるとともに、周辺地域では各拠点を中心に生活交通等が確保されるなど、地域特性に応じた交通ネットワークを構築することを意味するとのことでありまして、そういうことをしっかりとやらなければならないような長期構想がもう既にできているわけなんです。その前に、僕は今回質問に去年の2月定例会中での質問を何ぽか入れています。そのときにやると言われて、だから、そういう話でいけば、先ほども言いましたけど、平成28年度の初めから地域の皆さんの意見を入れてやっぱりできていないといけないと思うんです。そういうことができていない。僕は、行政の怠慢じゃないかなと、そういうふうに強く思っています。その部分に関しての御所見をお示しく下さい。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

議員おっしゃるとおり、中心部におきましても周辺部におきましても、当然市民の足を確保するということが大変重要でございますので、今後とも進めてまいりたいと考えております。特に、地元に対しましては、このコミュニティバスの説明が余り行き届いていなかったということで御不満もあろうかと思っておりますので、今後は地元に対しまして対応案だけでなく、進め方や実施時期などにつきましても、丁寧な話し合いを行いまして、地域と一緒に運行情況改善に向けた取り組みをできることから進めまして、御津・建部コミュニティバスを今よりも便利で使いやすい生活交通にしてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◆28番（森田卓司議員）

ぜひということで、新しい担当局長になられたわけなので、路面電車の乗り入れと御津、建部のコミュニティバス、それだけじゃなく、周辺地域の公共交通をどうするかという課題があると思っておりますので、その部分にはしっかりと取り組んでいただきたい。長期構想にはちゃんとそうなっているので、取り組んでいただきたいと思っております。それについての再度の御所見をお聞きして、私の質問を終わらせていただきます。

◎鹿子木靖都市整備局都市・交通・公園担当局長

議員おっしゃるとおり、公共交通の維持あるいは確保や改善は、岡山市にとって重要な課題であると認識しておりますので、いろんな施策にできることからしっかり取り組んでまいりたいと思っております。

以上でございます。

